

令和5年度第1回小諸市総合計画審議会 議事概要

令和5年8月7日（月）開催

開催日時 令和5年8月7日（月）午後1時30分から

開催場所 小諸市役所3階 第1、第2会議室

出席委員 西村廣一、小山真紀、小山田武、小川省一、竹花長雅、市村憲一、
(敬称略) 井村敏明、宮沢幸一、手塚光太、後藤理恵
以上10名（欠席委員：塩川真弓、奥田純子、以上2名）

1 開会（進行：企画課長）

2 委嘱書の交付

【市長から委員へ委嘱書を交付】

3 市長あいさつ

市長

本日は、お忙しいところ、令和5年度第1回総合計画審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。また、日頃から市政に対し、ご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。先ほど、ご委嘱申しあげましたが、皆様におかれましては、公私ともにご多用の中、審議会委員の就任につきまして、ご快諾をいただき、重ねて御礼を申し上げます。

当市の総合計画審議会につきましては、かつては「総合計画策定審議会」という名称で、計画を策定する時のみ設置し、策定が終わると解散しておりましたが、現在は常設型の審議会として、「総合計画の策定」のみならず、「総合計画の進行管理や評価」、「市の行政経営に関する事項」の調査審議を任務としております。「市の行政経営に関する事項」が調査審議の対象ということで、地方創生に関する事項を含めた、市の政策・施策における重要事項全般が調査審議の対象となりますので、「総合計画」が自治体の最上位計画であることに鑑み、「総合計画審議会」は大変重要な審議会であります。

令和2年度に策定した第11次基本計画では、小諸版ウエルネスシティを掲げ、様々な分野での「健康」「健全」を目指すことで、小諸市が、市民・市外の方々それぞれが快適に過ごせる「サードプレイス」となるとともに、第5次基本構想の将来像である「住みたい 行きたい 帰ってきたい まち 小諸」に向かって、取り組みを続けてきました。第10次基本計画、第11次基本計画に基づく様々な取り組みの成果により、小諸市は現在、転出者より転入者が大幅に増加している状況となっており、移住者と従来 of 市民との間で、化学反応が起き、まちに活気が出て新たな盛り上がりを見せているように感じています。今年 of 状況としては、1月から7月までで187人の社会増となっており、かなり活気が出てきています。今日もしなの鉄道の沿線自治体や阿部県知事など of 会議があつたが、県知事からも佐久地域には大変期待しているという言葉いただきました。しかし、出生と死亡 of 自然減については課題となっています。

先ほど申しあげた、令和2年度から令和5年度までの計画である、第11次基本計画は、今年度が計画 of 最終年度であり、振り返りを行うとともに、次期基本計画である第12次基本計画 of 策定準備を進める段階となっています。審議会 of 委員 of 皆様におかれましては、それぞれ of お立場でお力添えを賜るとともに、次期基本計画がより良いものとなるよう、当市 of 行政経営、さらには地域経営 of 質 of 向上に向けた、忌憚のないご意見や、真摯なご議論をお願い申し上げ、第1回 of 審議会にあたりましてのご挨拶とさせていただきます。よろし

くお願いいたします。

4 自己紹介

(委員、市職員自己紹介)

5 審議会の任務

続きまして、審議会の任務についてご説明いたします。お手元にお配りした小諸市総合計画審議会条例をご覧ください。第2条に任務についての記載がございます。

第2条 審議会は、次の各号に掲げる事項について、調査審議する。

- (1) 小諸市総合計画の策定に関する事項
- (2) 小諸市総合計画の進行管理及び評価に関する事項
- (3) 小諸市の行政経営に関する事項

ということで以上の3項目について審議をいただくこととなりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

6 正副会長の選出について

続きまして、正副会長の選出を行いたいと存じます。今、ご覧いただきました条例の第5条をご覧ください。「第5条 審議会に会長及び副会長1人を置き、委員が互選する。」と規定があります。委員の互選とありますが、いかがいたしましょう。

ご意見等ないようであれば、事務局に案がございますので、発表させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

【意見なし】

それでは、会長に西村委員、副会長に後藤委員にお願いしたいと存じますが、いかがでしょうか。よろしければ、拍手で確認をお願いいたします。

【一同の拍手により決定】

それではここで、正副会長に就任いただきましたお二人から、ご挨拶をいただきたいと存じます。

会長

引き続き会長を拝命いたしました。私は他の委員の方に会長をやっていただく方が良く思っていたのですが、今回の任期の2年間は大事な2年間でありますので、第11次基

本計画の評価、第12次基本計画の策定をしっかりと行う必要があります。会長に就任したからには、重みを感じつつ、精一杯頑張っていきますのでよろしくお願いします。皆様は様々なキャリアや考え方をそれぞれお持ちです。ぜひ忌憚のないご意見をお出しいただき、勢いのある小諸市をさらに盛り上げていただきたいと思います。

今回、副会長となる後藤委員とは過去にご縁があり、2006年の広報こもろの掲載記事において、私と後藤委員と他2名の計4名で対談をしたことがあります。対談した方々は、私を含め全員が小諸市外から小諸市に来た方で、小諸には素晴らしい場所や、宝がたくさんあるという、4人が思う小諸の良さの話をしたことをよく覚えています。「よそ者、若者、バカ者」という言葉がありますが、今、懐かしく思い出しておりました。それでは皆さん、2年間宜しく願いいたします。

副会長

先ほど西村会長のお話にあった広報こもろの記事については、私も当時のことを思い出し、大変懐かしく感じました。委員としては今回2期目になります。微力ではありますが、次期基本計画である第12次基本計画を策定する大事な時期でありますので、皆様と一緒にたくさんの意見を交わしながら、小諸市の発展につながるようにしていきたいと思えます。どうぞよろしくお願いします。

それでは、協議事項に入らせていただきます。なお、協議事項からの進行は、規定により西村会長をお願いいたします。

7 協議事項（進行：西村会長）

(1) 総合計画について

それでは、総合計画について、事務局から説明をお願いします。

【事務局から、資料「総合計画について」に沿って総合計画の概要を説明】

只今の説明について、ご質問があればお願いいたします。

【質問なし】

(2) 第11次基本計画進捗状況について

次に、第11次基本計画の進捗について、事務局から説明をお願いします。

【事務局から資料「総合計画の進捗状況」に沿って説明】

只今の説明について、ご質問があればお願いいたします。

委員

今回の資料にはありませんが、今年の住みよさランキングで小諸市が上位であったという話を聞きました。住みよさランキングについて詳しい説明をお願いします。上位であったということは、様々な小諸市の政策の結果であると思います。

事務局

資料をお持ちし、後ほどご説明します。

委員

市民意識調査の結果は右肩上がりであり良い状況だと思います。資料を見ると、15歳から24歳の年代においては、進学・就職世代の転出が増えていますが、これは地方の共通の課題であると思います。小諸市としてこの年代に対する対策をどのようにお考えか教えてください。また、市民意識調査が市民を対象としており、市外に転出された方の意見を拾うことが難しいため、調査方法の見直しも検討してはいかがでしょうか。

事務局

ご指摘のとおり、市民を対象とした調査ですので、調査の性質上、転出をされた方の意見は反映されません。これから出ていく予定の方や、一度は転出されても再度戻ってきた方などの意見については、少なからず反映されていると考えています。

転出の年代については、高校を卒業するタイミングで転出された方が戻ってこないという事実を課題と捉えています。特に、女性の割合が多いのも課題です。小諸市としては、ウェルネスシティを目指すことで、Uターンを増やしつつ、現在住んでいる人にとっても住み続けたいと思うまちづくりを意識しています。

委員

小泉市政はパワフルで、リーダーシップがあり、色々な取り組みをされてきたことは区長としても誇らしく思います。しかし、課題と感じているのは、選挙の投票率が悪いことです。直近の市議会の投票率も悪い結果でした。子ども達が選挙に関心がないことの表れでもあるかと思いますが、その親世代が投票に行かないので子どもも行かなくなっているように感じます。生涯教育の取り組みとして、高校や小・中学校に訪問するなどして、選挙の大事さは伝えてほしいと思います。最近、小諸市は元気が出てきており、逆襲が始まったとも言われていますが、投票率が低いと市民に理解されていないという事になってしまいますの

で改善をお願いします。

全国のふるさと納税の結果を目にしましたが、宮崎県の都城市の納税額には驚きました。全国に魅力を発信し、財源を確保するために、ぜひ小諸市もふるさと納税に力を入れていただきたいです。

市長

投票率については、市議会選挙の投票率が低かったのは市民と接触する機会が少なかったのが影響したかと思います。コロナ禍のため、議員候補が市民と直接会うことができず、ネット中心の広報となってしまったため、多くの市民が候補者のことをよく知らないという事態に陥ってしまいました。やはり市民と触れあうことは大事なことです。現在は議員がイベントや行事に参加し、議員と市民が触れ合う機会が増えていますので4年後の市議会選挙には期待したいと思います。選挙に関する教育については、昔と比べ、学校でも投票や政治の大切さについて学ぶ場は増えているように感じています。小諸高校と小諸商業高校において、移動投票所を設置し、投票率の向上を図る取り組みも実施しましたが、実際の利用者が想定していたよりも少なかったことは課題と考えています。

全国トップの自治体のふるさと納税額ともなれば、小諸市の1年間の予算額に匹敵する額です。返礼品を目的とした納税も多いですが、それにより地域の産業振興が良い影響を受けているのも事実ですので、小諸市も財源確保のために力を入れていきたいと考えています。今年度の現在時点での納税状況としては、小諸市は少し苦戦しています。例年、納税が多くなる11月・12月に向け、あらためて対策していきたいです。

委員

高校では、それぞれの教科で違う視点から主権者教育について生徒が学んでいます。移動投票所について、投票人数は少なかったものの、休日に部活動をしている生徒が投票をすることができたことは良かったと思います。こういった取り組みは何回も繰り返していく内に大きなものになっていくように感じます。

【住みよさランキングに関する資料を追加で配布】

市長

住みよさランキングについて説明します。東洋経済新報社が作成しているランキングであり、20の指標に基づき全国812市区の順位が決定しますが、小諸市は数年で大きく順位を伸ばし、今年の順位は25位でした。安心度・利便性・快適度・富裕度という4つの評価があり、それぞれの評価は様々な指標により算出されています。近隣の佐久市とは、快適度や富裕度で順位に差がつかしました。快適度に関して言えば、下水道料金と水道料金が一緒に請求されていることにより、小諸市は水道料金が高いと思っている方が多いですが、実際は

佐久市より水道料金が安いです。小諸市が 25 位という高い順位となった要因としましては、日照時間、人口当たりの法人市民税の数値が特に良く、それ以外の数値もまんべんなく良いためであると考えられます。住みよさランキングは、他のアンケート調査のような主観的な回答によるものではなく、客観的な指標により順位が決められているので重要視していません。

【竹花委員退席】

(3) 第 12 次基本計画策定方針について

次に、第 12 次基本計画策定方針について、事務局から説明をお願いします。

【事務局から「第 12 次基本計画策定方針」に沿って説明】

只今の説明について、ご質問があればお願いいたします。

委員

5 ページから 6 ページの策定体制について、DX 推進会議と掲載されている一方で、ゼロカーボン推進本部と掲載されています。推進会議と推進本部の違いは何でしょうか。また、できる限り会議体のレベルを合わせて、掲載した方が良いのではないのでしょうか。

事務局

DX については推進会議という各課長 24 名と選出された職員 24 名で構成され、DX の取り組みを具体的に提案してもらう会議体があります。DX 推進本部という会議体も上位にあります。あえて実際に議論を行う会議体である DX 推進会議を掲載させていただいております。なお、ゼロカーボンの組織は推進本部のみであり、推進会議という会議体はありません。

委員

スケジュールについて、審議会の開催はいつ頃、何回程度でしょうか。

事務局

今年は 9 月下旬にもう 1 回開催を予定しています。今年度の後半は事務局で素々案を作成する期間とさせていただくため、審議会の開催は予定していません。来年度は 6 月～8 月頃にかけてパブリックコメントを実施し、その後、基本計画の策定作業として 8 月頃から 10 月頃にかけて短期間で 3、4 回程度集まっていただく予定でおります。状況に応じて日程が前後する可能性があります。よろしくお願いいたします。

会長

小諸市の基本計画の策定期間と計画期間について説明をお願いします。

事務局

小諸市の基本計画は、市長の任期と基本計画期間を合わせるとともに、市長マニフェストを基本計画に反映させることとなっています。そのため、次期基本計画で言いますと、計画期間が令和6年度から開始となっているものの、令和6年12月議会での議決を目指し、計画策定作業を実施するスケジュールとなっています。

(4) 第11次基本計画施策評価について

次は、第11次基本計画施策評価について、まずは事務局から資料の説明をお願いします。

事務局

施策評価については、「第11次基本計画施策評価（令和2年度～令和4年度）」という資料に沿って、こちらから説明をした後に、皆様からご意見をいただく形式で進めます。このほかに、「《参考資料》令和4年度施策評価」という昨年度の施策を評価した資料と、「《参考資料》令和4年度事業評価」という昨年度の事業を記載した資料の2つの資料配布しております。こちらは参考資料ですので、会議の中では触れません。小諸市の昨年度の具体的な取り組みを把握していただく資料としてお配りしていますので、各自でお目通しください。

会長

小諸市の基本計画は、政策1が子育て・教育、政策2が環境、政策3が健康・福祉、政策4が産業・交流、政策5が生活基盤整備、政策6が協働・行政経営として、6つの分野の政策を柱としています。本日の施策評価をするにあたっては、まずは、全ての政策に関係してくる政策6の協働・行政経営に属する施策の説明を事務局からしていただき、意見をいただきたいと思います。

それでは、政策6について説明をお願いします。

【総務部長から、資料「第11次基本計画施策評価（令和2年度～令和4年度）」に沿って、施策6-1から施策6-5まで説明】

委員

施策6-1の中長期の取り組みの方向性にも記載されていますが、地域と連携した学びについて、高校生が地域活動に参加し、大人が教育に参加することで学校は変わっていくと

思いますし、高校再編後の新校の一番の売りの部分でもあります。子ども達が地域の企業を知ることは重要なことです。それによりUターン率の向上にもつながるとともに、将来の人材育成にもつながると思いますので、今後も引き続き市役所に協力をお願いしたいです。

事務局

これまでも市役所と高校との連携に力を入れてきましたが、これからも強く意識しながら進めたいと思います。

会長

小中学生・高校生が、街のことや住んでいる人々のことを勉強することで、地元のことを好きになり、後々帰ってくるようになれば良いですね。高校と市役所がタッグを組み積極的に進めていただくようお願いしたいです。

委員

施策6-2のプロモーションを進めたことで社会増につながったということですが、社会増が定着するために、市民意識調査の満足度が低く、重要度高い施策を中心に進め、定着を図ってほしいです。施策6-3について、未利用資産・施設においては、民間企業での活用も含め積極的に検討していただきたいです。

事務局

市民意識調査については、私どもも同じように考えており、住みやすいまちづくりを目指したいと思っています。学校の跡地利用については、民間企業での活用や、地域のコミュニティでの活用など、活用方法は様々ですので、地域の皆様と相談しながら活用方法を検討していきたいです。

委員

学校再編やその後の活用の話がありましたが、高校や小学校が地域に無くなることで、今まであった避難所がその地域に無くなってしまふことを懸念しています。

事務局

学校再編後の避難所については、現在検討しています。避難所のあり方の見直しも含め、地域の皆さんと話し合っていていきたいと考えています。

市長

他の会議で話題に上がったのですが、佐久地域には軽井沢町の風越学園やアイザック、御代田町のサムエル幼稚園、佐久穂町の大日向小学校など、私立の学校が複数あり、佐久市の

小学校跡地でも新たな学校の開校の動きがあります。これらの学校を中心に、教育を軸にした移住がさかんになってきているように思います。空き校舎を活用した特色ある学校である傾向があり、地域の活性化が進んでいます。小諸でも小学校3つと高校1つ、計4つの校舎が空く予定があります。また、小諸で具体的な跡地利用の話があるわけではありませんが、長野県知事は学校誘致などに対して支援を行っていく予定であるということをお話されていますので、市としても検討を進めていきたいです。

委員

社会増は喜ばしいですが、今住んでいる方たちが住んでいて良かったと思えるようにしていただきたいです。様々な施策を行っているかと思いますが、全部の施策がつながっていると感じます。自治体として独自の子育て施策を打ち出して、その財源はふるさと納税でまかなっていただく等の検討をしていただきたいです。空き校舎の利用と並行して、新校をしっかりと建て、それにより社会増と自然増を達成できれば良いですし、こういう機会は良いチャンスであると考えます。

市長

これから小学校の施設の具体的な計画をしていきますが、平成28年から小中一貫校を見据えた小学校再編に取り組んできています。小諸独自の教育をやっていきたくており、特に、地域学習や、国語力を身に付けることは大事であると思っています。小諸市の50年、100年の根幹になってくる施設でありますので、公立だからといって他の学校と横並びである必要はなく、特色をしっかりと出していきたくて考えています。

会長

小学校低学年の教育について、子どもとネットを議題としたある講演会でのことですが、子どもに「将来何になりたいですか」と聞くと「スマートフォンになりたい」という答えが複数あった、という話がありました。これは、子どもが話しかけても親がスマートフォンに熱中して見向きもしてくれないとのことで、親に愛着を持たれたいとの強い思いから「スマートフォン」という答えが出たようです。こういう世の中が現実です。世の中の動きをしっかりと見極めて、政策を考えていかなければならないと思います。

事務局

社会増に関するお話が多かったので、小諸市の移住者施策についてご紹介をさせていただきます。移住者への補助金などを中心に移住施策を進めていますが、今年度は目立つPRとしまして、都心で発行されているメトロミニッツという冊子に小諸市の情報を掲載しました。毎月20日に10万部発行される冊子であり、東京メトロを活用している多くの人に読まれている情報誌です。また、都心ではログハウスメーカーのベス（株式会社アールシー

コア)のファンが多く、小諸市内でベスの住宅を20区画建設したところ、数カ月で17区画が売れ、購入者の全員が、移住者もしくは2拠点居住者です。7月には代官山でベスの施設を活用して小諸市単独でマルシェを開催し、大変好評でした。この他に移住体験ツアーの実施も予定しています。

委員

外部から人が来れば来るほど、小諸市の経済活動は活発になります。観光客も含め、勝手に外から来る人が急増するということはあまり無く、地道に誘客の取り組みを行っていく必要があると思います。新しい企業がたくさんできていますが、観光への取り組みに協力的です。民間の力をどのように活用し、どのように協力して取り組んでいくかが重要です。空き校舎の利用について、空き施設であろうと維持費はかかってきます。新たな活用が決まるまで、一時的にイベントを実施して維持費の足しにするなど、財政面を考えて、様々な方法を模索しなければいけないと思います。

(5) その他

事務局

今回は9月27日の午後に開催予定です。本日の審議会で政策6の施策についてご意見をいただきましたので、今回は政策1から政策5までの施策についてご意見をいただく予定です。

8 閉 会

以上